

種類によっては、その時だけ効けば、ある一定期間は発生しないものもあるので、残効期間が短くとも充分に防除できる薬剤の方が良い場合もある。

このように、芝地に対する配慮から、土壌残留性のなるべく小さいものの開発と同時に、今まで開発された薬剤の、芝の生理生態および雑草の生長メカニズムにマッチしたような使用方

法を確立するための、作用特性等の再検討が望まれる。

当日、深刻な冗談として、除草剤等農薬の分解剤があったらいいが、などと言われていたが、これはこれからの農薬開発等に警告を与えると共に、また一つの方向の暗示とは見てとれないだろうか。

昭和46年度冬作関係除草剤 試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会委託の昭和46年度冬作〔麦、イグサ、水稻刈跡多年生雑草対象など〕除草剤作用特性および、適用性試験成績検討会が、去る9月4日東京〔薬業健保会館〕において開催された。その結果の概要は次のとおりである。

1 供試除草剤の動向

供試除草剤数について対象別の傾向は第1表のとおりである。

昨年どおり水稻刈跡、麦類、イグサ類対象の順であるが水田裏作の減少とともに全般には供試薬剤、点数とも減少の傾向がみられる。

2 昭和46年度試験結果の概要

昭和46年度供試薬剤数は25薬剤でのべ点数93である。供試薬剤の成分一覧は第2表のとおりであるが、これらの供試薬剤中有望であるとされ実用化および実用化とともに一部継続とされた薬剤は第3表のとおりであり、対象別には、麦類対象のT O - 2水和剤、B - 3 0 1 5・プロメトリン乳剤、いぐさ類対象、X - 5 2粒剤、トリフルラリン粒剤、水稻刈跡（マツバイ）対象、D P A・M C P水溶剤、D P A・M C P微粒剤の6薬剤が実用化の判定をうけた。これらの使用基準は、第4表のとおり。

＜第1表＞ 冬作関係除草剤試験供試薬剤数の推移

対 象		試 験 年 次 別 供 試 薬 剤 数								
		3 8	3 9	4 0	4 1	4 2	4 3	4 4	4 5	4 6
麦 類 な た ね い ぐ さ 水稻刈跡 マツバイ ミズガヤツリ ヒ ル ム シ ロ ク ロ グ ウ イ ウ リ カ ワ スズメノテッポウ 休 耕 田 そ の 他 計		4 5	3 0	2 5	1 3	7	9	8	1 1	8
		5	6	4	4	4	3	0	0	0
		0	1	6	4	4	3	5	7	4
		6	9	9	7	1 5	7	1 1	1 7	7
		7	7	8	3	6	8	1 0	7	2
		0	3	2	1	2	0	0	0	0
		0	0	1	0	0	1	1	0	0
		0	0	0	0	0	0	4	4	0
		0	0	0	0	0	0	3	0	4
		0	0	1	6	0	0	0	0	0
	2 4	3 2	2 0	1 2	1	1	1	1	0	
計		8 7	8 8	7 6	5 0	3 9	3 2	4 3	4 7	2 5

< 第 2 表 > 昭和 4 6 年度 冬作 関係 除草 剤 供試 薬剤 成分 一覧表

対 象	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委 託 会 社
1) 麦 類	X - 5 2	乳	2,4-ジクロロ-3'-メトキシ-4'-ニトロジフェニル エーテル 15%	X-52 協 議 会
	B-3356	乳	S-(2-クロロベンジル)-N,N-ジエチルチオール カーバメイト 50%	クミアイ化学工業
	B-3015・ プロメトリン	乳	ベンチオカーブ・プロメトリン	クミアイ化学工業
	トリブニール	水和	1,3-ジメチル-3-(2-ベンゾチアゾリル)ウレア 70%	日本特殊農薬製造
	N P - 1 7	水和	未 公 開 20%	日 本 曹 達
	S L D - 6 9 5	水和	Cl-IPC・リニュロン 17.5+7.5%	石 原 産 業
	T O - 2	水和	5-クロル-4-メチル-2-プロピオンアミドチゾール 50%	三井東圧化学
	T O - 2 D	水和	TO-2+2,4PA	三井東圧化学
2) い め さ 類	X - 5 2	粒	2,4-ジクロル-3'-メトキシ-4'-ニトロジフェニル エーテル 7%	X-52 協 議 会
	X-52 10.5	粒	2,4-ジクロル-3'-メトキシ-4'-ニトロジフェニル エーテル 10.5%	X-52 協 議 会
	B-3015S	粒	ベンチオカーブ・シメトリン 7+1.5%	クミアイ化学工業
	トリフルラリン	粒	α, α, α -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N,Nジブ ロビル-パラートルイジン 3%	塩 野 義 製 薬
3) 水 稻 刈 跡 i) マツバイ 対象	DPA・MCP	水溶	DPA+MCP 56.2+18.8%	石 原 産 業
	DPA・MCP	微粒	DPA+MCP 15+5%	石 原 産 業
	N C - 3 2 3	水和	TCA-Na+DCMU 85+3%	日本カーバイト
	S L T - 7 1 1	水和	DCPA+NAC+モノクロル酢酸ソーダ 84%	石 原 産 業
	C B - 7 1 2	乳	サイプロミッド+プロモキシニール 20+15%	C B 研 究 会
	K - 3 7 0	水和	2,4PA+アトラジン 60+30%	日 産 化 学
	K - 3 7 1	水和	2,4PA+アメトリン 60+6%	日 産 化 学
ii) スズメノ テッポウ 対象	S L T - 7 1 1	乳	DCPA+NAC+モノクロル酢酸ソーダ 3.6+0.7+85.7%	石 原 産 業
	C B - 7 1 2	乳	サイプロミッド+プロモキシニール 20+15%	C B 研 究 会
	S L T - 7 1 3	乳	未 公 開	石 原 産 業
iii) ミズガヤ ツリ対象	M B - 8 1 7	粒	MCPアンモニウム+DCMU 4%	丸和バイオケミカル
	S C - 4 2 0 3	粉末	塩素酸ソーダ (NaClO ₃) 70%	昭 和 電 工

＜第3表＞ 昭和46年度冬作関係除草剤実用化判定表

区 分	実 用 化	実 ～ 継	継 続	継 ？	中 止
1) 麦 類	T O - 2 水和	B-3015・プロメトリン乳	B - 3 3 5 6 乳 トリブニール水和 N P - 1 7 水和 T O - 2 D 水和	X - 5 2 乳	S L D - 6 9 5 水和
2) い ぐ さ 類		X - 5 2 粒 トリフルラリン 粒	X - 5 2 1 0.5 粒 B - 3 0 1 5 S 粒		
3) 稲 刈 跡		D P A ・ M C P 水溶 D P A ・ M C P 微粒	N C - 3 2 3 水和 S L T - 7 1 1 水和 K - 3 7 0 水和 K - 3 7 1 水和		S L T - 7 1 2 乳
i) マツバイ					
ii) スズメノテ ッポウ			C B - 7 1 2 乳 S L T - 7 1 3 乳 S L T - 7 1 1 水和		
iii) ミズガヤツリ				M B - 8 1 7 粒 S C - 4 2 0 3 粉末	

＜第4表＞ 昭和46年度冬作関係除草剤実用化薬剤使用基準

区 分	除 草 剤 名	処理法	処理時期	使用量 (製品)	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
1) 麦 類	T O - 2 水和 (C M P T) 小 麦	茎葉処理	広葉雑草 3～4 L 期 イネ科雑草 15～20 L 期	60～80 g/a	砂壤土～ 埴土	温暖地以西	・適期に散布する。
	B - 3 0 1 5 ・ プロメトリン乳	土壌処理	播種直後 ～麦出芽前	50～75 g/a	壤土～ 埴土	温暖地以西	・播種深度が浅い場合または砂土の場合は薬害の発生があるので注意する。
2) い ぐ さ	X - 5 2 粒	土壌処理	1月上旬～ 2月上旬	600 g/a	壤土～ 埴土	温暖地西部 以西	
	トリフルラリン 粒	土壌処理	3月下旬～ 4月上旬	400～600 g/a	壤土～ 埴土	温暖地西部 以西	・漏水田さける。 ・ヒエの発生初期散布。 ・均一散布。 ・前処理として2月下旬～3月上旬に DBN 500 g/a 内外を散布する。

区 分	除 草 剤 名	処理法	処理時期	使用量(製品)	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
3) 水稻刈跡 i) マツバイ	DPA・MCP 水溶	茎葉処理	稲刈取後平 均気温 18℃以上	80~120 g/a	壤土~ 埴土	温暖地以西	・マツバイ, 冬生雑 草対象
	DPA・MCP 微粒	茎葉処理	稲刈取後平 均気温 18℃以上	300~450 g/a	壤土~ 埴土	温暖地西部 以西	

新 登 録 生 育 調 節 剤 一 覧

農 林 省 農 政 局 植 物 防 疫 課

昭和47年6月1日~7月31日

農薬名	有効成分の種類 および含有量	剤型	適用作物名	使用目的	使用時期	使用量または希釈倍数	使用方法	登録会社
ルチエース	5-クロル-1H-3-イン ダゾリル酢酸ナトリウム 0.050%	粉剤	花木類 ヒマラヤシ ーダ, マメ ツゲ, ドー ダンツツジ, キンポージ ュ, モクセ イ, カイツ カイズキ, ツバキ(品 種は熊谷に 限る)	挿木の発 根及び活 着を促進 する	各種花木類の 通常の挿木時 期	粉剤をその まま使用す る	挿穂の切 り口を水 でしめら せ本剤を 粉衣しす ぐに挿床 に挿す	日産化学 工業
日本カーバイ ドMH-30	マレイン酸ヒドラジドジエ タノールアミン 58.0%	液剤	たまねぎ	貯蔵中の 発芽防止	収穫前 1～2週間	120～150倍	散 布	日本カー байд工業
			ばれいしょ		収穫前 2～3週間	100～200		
			てんさい		収穫前 2～4週間	120		
			たばこ	発芽抑制	芯止期以降	60		
			かんしょ	つるぼけ 防 止	収穫前 2～3週間	120		
			夏蒔 かんらん	抽苔防止	11月下旬 ～12月上旬	100		
			結球 はくさい		12月下旬 ～1月上旬			
			にんじん		収穫前 1～3週間	120		